

腎機能

腎臓は主として体内の不要物を尿に排泄するろ過器の役目をしています。腎臓の病気でろ過機能が落ちると、血液中に不要物が溜まって、尿毒症を起こします。

腎臓病では必ずといっていいほど尿に蛋白が出ますので、尿検査が腎臓病の有無を知る基本的な検査ですが、腎臓病の程度は尿素窒素やクレアチンの血中濃度を測って推定します。

—基準値表—

項目	異常域(低)	境界域(低)	基準域	境界域(高)	異常域(高)
尿素窒素		~7.9	8.0 ~20.9	21.0 ~25.9	26.0~
クレアチニン (酵素法)	男		~1.00	1.01 ~1.29	1.30~
	女		~0.70	0.71 ~0.99	1.00~
eGFR	~44.9	45.0 ~59.9	60.0~		

尿素窒素

尿素窒素は、蛋白が体の中で分解されたときにできる物質の一つです。
尿素窒素の大部分は尿中に排泄されますが、腎臓の排泄機能が悪くなると、血液中の尿素窒素の濃度も高くなります。腎機能異常の他にも、蛋白質をたくさん摂取した場合、また運動や発熱の後など水分が血液中から失われたり、筋肉等の蛋白質の破壊が起こった場合でも高い値になることがあります。

クレアチニン

クレアチンは、肝臓で筋肉中のクレアチンから合成されてできる物質です。
一般的に男性の方が筋肉量が多いので、基準値は女性よりも高めになります。
尿素窒素と同じように、大部分は尿中に排泄されますが、腎臓の排泄機能が悪くなると、血液中のクレアチニンの濃度も高くなります。

eGFR

血清クレアチニン値と年齢・性別から推算式で算出した推算GFR (eGFR:estimate Glomerular Filtration Rate) です。腎臓の動きを示す指標で、慢性腎臓病を早期発見し、早期に治療を開始できます。対象年齢は、18歳以上です。